

今宿八坂神社祭囃子保存会



八坂神社祭囃子保存会
会長 大野 勝さん

「小さいときから、八坂神社の祭囃子には、慣れ親しんできた。小学校1年生から6年生まで子ども会を通じて関わり、その後は遠ざかっていったが、社会人となり誘われて太鼓を叩くようになった」と話してくれたのは、保存会会長の
大野さん。
「笛と違い、太鼓のリズムは多少のフランクがあっても体が覚えていく」とのことです。
八坂神社祭囃子保存会には、毎年多くの子どもが参加し、練習しています。山車が出ている時間は、子どもも山車についていくので、神楽殿のお囃子を聴いてくれる観客が少なくなりました。また、本番で叩ける子が限られてしまう問題もあるということです。
かつて、八坂神社祭り囃子が廃れ始めた時期もありましたが、毛呂神社屋台囃子に関わりのある方が小用に移り住み、八坂神社の祭り囃子を盛り上げた経緯があります。

互いの祭りを越え、お囃子に影響を与えつつ、更なる発展が起きることを願います。



この理由は、八坂神社祭り囃子と毛呂神社屋台囃子の節が似通っているためで、数年前には、熊井祭囃子保存会の方に、山車や神楽殿で笛や太鼓の演奏を聞いていただいたこともあったとのことでした。

八坂神社祭り囃子



京都祇園囃子の流れを汲む「祇園ばやし」「屋台」「仁羽」などの曲目があり、山車・神輿・獅子の渡御が行われます。300年以上の歴史があり、無病息災などを願い始まったとされます。7月の今宿八坂神社の例大祭で行われる町指定無形民俗文化財です。

熊井祭囃子保存会



熊井祭囃子保存会 会長 植木 弘さん(写真中央)
副会長 仲島 公夫さん(写真左)
子ども囃子指導部 小鷹 直樹さん(写真右)

「子どもの頃から、毛呂神社の屋台囃子は好きだった。高度経済成長期に社会情勢の影響から、後継者がいなくなってしまうと誘われたのが、囃子を始めたきっかけ」と話すのは会長の植木さん。
古くから存続してきた伝統芸能ということもあり、残していきたいという思いが強くある中、後継者不足という大きな問題があります。
「ここ数年、女性が数名入会したり、小学生時代に太鼓を練習していた子が大人になり、叩きに来られるようになったのは明るい兆し」「熊井から出ていった子が、お祭りだけでも参加してくれれば、にぎやかで嬉しい」と強い思いで話してくれました。
毎年、亀井小学校の「昔を学ぶ

毛呂神社屋台囃子



太鼓・笛・あたり鉦・踊りで構成され、「仁羽」「屋台」「数え唄」「祇園囃子」などの曲目があり、疫病流行の際、無病息災などを願い始まったとされています。7月の熊井毛呂神社の例大祭(通称天王様)で行われる町指定無形民俗文化財です。

会」では太鼓の指導や演技を行い、ひばり保育園の夏まつりでは、お囃子を披露しています。「披露できる場が増えれば励みになる」とのことでした。
かつて、地域を練り歩いていた獅子舞からは、長年途絶えていましたが、平成30年からは神社敷地内を練り歩く形で復活しつつあります。また、囃子の曲目が似通っている今宿八坂神社祭り囃子との地域を越えた交流の実現も、強く願っていました。
長らく受け継がれてきた屋台囃子を継承しつつ、新しい時代の形も取り入れ、次の世代に残していきたいと思いが感じられました。



受け継がれし 伝統文化を追う

「コロナ禍を乗り越え未来へ伝えるために」

町の指定無形民俗文化財である「泉井神社獅子舞」「八坂神社祭り囃子」「毛呂神社屋台囃子」は無病息災・五穀豊穡などを願い、地域の人たちによって代々受け継がれてきました。笛や太鼓のお囃子にあわせて演じられる踊りや獅子舞は、いずれも勇壮で華やかなものです。
戦争などによる中断を乗り越え、後継者不足や時代の変化により一部は形を変えながらも、各地域で大切に受け継がれてきました。しかし今年、新型コロナウイルス感染症防止対策の観点から、奉納等が中止となりました。この状況下で次世代に大切な地域の文化を残していくためにも、その歴史・伝統を受け継ぐ保存会の皆さんにお話を伺いました。

鳩山町では、町内に残る獅子舞やお囃子の記録映像を作成し、町立図書館で貸出を行っているほか、広報はとやま動画チャンネルでもダイジェスト版を見ることが出来ます。
■問合せ 町教育委員会文化財担当
☎ 296-3862
広報はとやま動画チャンネル 検索

- 各団体についての問合せ
- ・泉井獅子舞保存会 千妻 公明 会長 ☎ 296-0559
 - ・今宿八坂神社祭囃子保存会 大野 勝 会長 ☎ 296-0040
 - ・熊井祭囃子保存会 植木 弘 会長 ☎ 296-1312

泉井獅子舞保存会



泉井神社獅子舞保存会
会長 千妻 公明さん

「泉井の獅子舞そのものは子どもの獅子舞。かつては当番が各家を回り、獅子を舞う子どもを見つけていた」と話してくれたのは、保存会会長の千妻さん。現在、少子化によって獅子を舞う子どもを見つけることに、保存会は苦労しています。
そこで、「ささら」と呼ばれる竹の楽器を演奏する花笠という役は、かつて男子のみであったものを女子でもできるようにし、獅子も長男しかできなかったものを今は小学4年生以上の男子(希望すれば女子も可)に枠を広げています。また、笛を吹くのは成人男子であったものが、今は花笠を卒業した中高生も参加するようになりました。
「獅子舞を子どもの頃に行い、その後祭りの参加からは遠ざかっていった。しかし子どもが笛をやりたい」ということで、親の自分も始めた」と話してくれたのは、会計の恩田さん。子どもも関わっていることで親も興味をもってもらえることが理想だそうです。現在は、新たに泉井地区の住民

泉井神社獅子舞



大獅子・男獅子・女獅子・花笠・猿田彦などで構成されるササラ獅子舞。500年以上の歴史があり、五穀豊穡や無病息災を願い、始まったといわれています。10月の泉井神社の例大祭で行われる町指定無形民俗文化財です。

となった人の子どもの獅子舞に参加しています。「生まれた時から泉井に住んでいる子も新しく越してきた家の子も、みんな同じ泉井の子ども」というのが保存会のスタンスだそうです。
副会長の福島さんは「40年くらい前に後継者不足と誘われ笛を始めたが、自分は1年程してようやく音が出るようになったと話していました。かつて口伝であった笛も、今は譜面を活用して伝承するようになりました。その笛はすべて手作りということで、「泉井の笛の音は良い」と笛を始めた人もいるとのこと。新型コロナウイルスの影響で大変な時期が続きますが、獅子舞再開時には笛の音色にも耳を傾けてみてください。」